

1

ア

2

熟し

3

視覚情報

4

I

イ

II

ア

III

ウ

5

イ

6

(記述題)

7

4

完答

一方

8

では、

視

9

エ

10

①

コ

ラ

②

コ

ス

パ

10

③

コ

ン

プ

ラ

11

a

刷

り

b

回

答

c

飛

べる

2

1

a

陸

b

冷

や

c

失

礼

2

A

び

B

け

c

ら

3

人

見

知

り

4

(記述題)

5

I

エ

II

ウ

III

イ

IV

ア

6

姓

エ

名

ウ

(6

完答)

7

エ

8

ウ

9

甘

え

10

苦

い

11

正

し

(10

完答)

1

6

視覚情報がさえぎられ、鋭くなった他の感覚器官で外界の情報を得ている。

(同意可)

2

4

カヌーから落ちたショックを引きずったまま、一人で次のレースに出る

(同意可)

配点
1 10・11 2 1・2 各2点×12=24点
1 6 2 4 各6点×2=12点
その他 各4点×16=64点
100点

1 直前の一文と ① を含む一文が言いかえになる内容を選ばよい。赤い色のドリンクは糖分が多いドリンクと同じ甘さを感じるということは、同じ糖分なら赤い色のドリンクの方が甘く感じるということである。

2 ②の一文が手がかりになる。人間がどのような色に食欲をそえられるのかについて——線②の七行前から書かれてあった。「食欲をそえられる」に近い表現を意識しながら探していこう。

3 「目」という感覚器官で得た「色」という情報が、味覚に影響をあたえる、ということである。

4 (Ⅰ)には前後に書かれている内容がほぼ同意なので言いかえの働きがある「つまり」が、(Ⅱ)には前で書かれていることの結果があとに書かれているので自然なつながりをあらわす「すると」が、(Ⅲ)には前後で例をならべているので並列をしめす「また」がそれぞれあてはまる。

5 ④ の前後を確認すると、視覚情報を遮断することと他の感覚が鋭くなるということが書かれている。」「目を閉じると」が視覚情報を遮断することにあたるので、④には、他の感覚が鋭くなるという内容が入る。アは聴覚、ウは触覚、エはその両方が鋭くなっているといえるが、「明るさ」を感じるのは視覚なのでイは不適となる。

6 8にあるようにこの文章は、「視覚情報の影響を他の感覚器官が受ける」「視覚情報がなくなると他の感覚器官が鋭くなる」という二つの部分で構成されている。「目の見えない人は世界をどう見ているか」が問われているのだから、文章の後半から手がかりを探すのではないかという見当をつけて考えてほしい。伊藤亜紗氏のいうとおり、触覚や聴覚といった他の感覚器官を発達させることで本来視覚から得ることができる情報を得ているのである。

7 「足は」が大きなヒントになっただろう。「足」が「移動するための運動器官」になるのはどういうときか考えてみよう。

8 6のとおり文章後半は、「視覚情報がなくなると他の感覚器官が鋭くなる」ということが話題になっていた。接続語に注目できていれば通読の際に気づくことができただろう。

9 文章を読み終わった後にぜひ気づいてほしかった。「チャールズ・スペンスの著書」「奥田弘枝氏らが行った調査」「ワインの色と香りの関係について調べた実験」など、数多くの引用がされていた。

10 最近よく見たり聞いたりするであろう言葉を集めてみた。①「コラボレーション」は複数の個人や集団が協力して新たなものを作り出すこと。②「コストパフォーマンス」は支払った費用に対する得られた効果の割合のこと。「コスパが良い」のような使い方をする。③「コンプライアンス」は企業や個人が法令や社会のルールを守ること。

11 a「刷」の左側の形には気をつけよう。b「回答」と「解答」でなやんだかもしれない。同音異義語は意味のちがいを理解することが大切である。c「飛」は字形をまちがえやすい。正しいものを確認しておこう。

2 1 a「陸」の部首はこざとへんである。「㇀」は「へん」の位置にあればこざとへん、「つくり」の位置にあればおおざとになる。b「冷やす」は送りがなをまちがえやすい。「冷たい」「冷える」「冷める」、覚えておこう。c「失礼」の「失」を「矢」に、「礼」を「札」としないよう気をつけよう。

2 C「からつきし」は「まるで」「全然」と同じ意味を持つ言葉で、後ろに打ち消しや否定的な表現をともなって使うことが多い。

3 —線①の表現から、人間に対するマイナスの特徴を湧別さんが持っているというイメージで探していったほしい。

4 希衣は舞奈がどうなることを心配しているのかを考えよう。「シングルだと艇内にフォローしてくれる人間はいない」ということが心配の中心にはなるが、舞奈がどういう状況だからこそ、それが心配になるのかをわかるように答えに入れ込みたい。

5 それぞれの表現がどういった心情を表出しているかを考えていこう。そして、あてはめていったときに、その表現が持つ心情が()の前後で不自然になっていないかということを確認していったほしい。

6 文学的文章ではだれがでてきて、何があつて、どういう心情で、といったように場面をイメージすることは必須の作業である。ちなみに原文では「恵梨香」と表記されていた。

7 直前の愛奈の「とまあ」という話しぶりからもわかるように、カヌー部員にわざと「姉妹の軽快なやり取り」を見せ、余計な気を遣わせないために愛奈によって行われたものだったのである。

8 カタカナで書くのがあまり一般的ではない言葉をあえてカタカナで書いている場合、その言葉の意味を(登場人物が)わかっているということを表していることが非常に多い。しかしここでは「可哀想」という言葉自体の意味がわからないのではなく、父親という存在に対して使うということが希衣の中にはなかったということを表している。

9 家族間、特に子が親に対してきつい接し方になることがあるのは、心の底に「家族なのだから許される」というある種の「甘え」があるからだ、ということは文学的文章ではよく描かれることでもある。

10 「不満がない相手」とは 人間 のことである。「不満がない」ということは、不満のもととなるような出来事を経験していないということであり、そういった人間のことを希衣は自分より下に見ているのである。

11 文学的文章の一場面の最後で風景を描写することによってその後を暗示するということはよく見られることである。ここではもちろん希衣がプラスに変化していくことを暗示している。

以上